

■編集・発行 **NPO法人 大谷石研究会**

〒321-0345 栃木県宇都宮市大谷町350番地
 (有限会社 高橋佑知商店内)
 TEL028-652-0005 FAX028-652-2337
 http://www.ooyaishi.org/
 mail:info@ooyaishi.org

編集責任者 佐藤 公紀

大谷石研究会では、会員の募集をしています!

入会の資格は、年齢、性別、職業、地域を問いません。
 「大谷石が好きだ」という事だけです。
 現在、20代から80代の約110名の会員がいます。
 年会費は個人会員3,000円、特別会員10,000円です。
 入会希望者は、左記の事務局へ問い合わせ下さい。



日立・常陸太田方面研修見学会に参加して

NPO法人大谷石研究会 会員 城生 一葉 (城生設計室)

今回は時代を経た建物を見学し、建物と街の「時の過ぎ方」を見られたのはとても貴重な体験で、多くの事を感じる旅でした。

最初に立ち寄ったのはJR日立駅でした。創建当初は、この場所に新たな世界観が生まれた事に感動しました。そして年月が経ち、当初の雰囲気と何かが異なると感じたのは、ガラス張りの海の風景を背景にこの駅を行き交う人々と建物が見え、それが日常の風景として感じ取れたからだと思います。時間が経ることで出来る上がる何かを感じました。

次に、森島酒造の酒蔵を訪れました。のびやかな大屋根の大谷石蔵の中に入ると、醸造期ではないが、大谷石の壁と古色の木組みの内部は、酒蔵独特のヒンヤリと湿気の帯びた空気を漂

わせ、長い歴史を重ね今でも現役で使われているのだと感じました。建物内がかすかに独特の匂いがしたので尋ねると、前日に酒蔵のみなどで手入れの為に柿渋を塗ったとの事でした。木樽から現在のタンクに変わり、醸造方法は時代の変化と共に手法を変えながらも、毎日みんな

で手入れをして、酒蔵の神様に手を合わせ、丁寧にこの建物と共に酒造りという尊い仕事を守り続ける、そんな人々がいるからこそ、私たちが今美味しいお酒を飲めるのだと思いました。

そして一番印象深い所が、日鉱記念館でした。日鉱山は、1905年に久原房之介が赤沢銅山を買収したところから始まります。工業都市・日立市の原点であり茨城県の近代鉱工業発祥と資料に記載があります。当時は、新たな歴史をつくり出す

激動の開拓時代でした。彼らの刻んだ時代があり、今があると思うと感慨深いものがあります。資料館では、鉱物の美しさ、複雑な坑道、人々・集落の歴史文化、それらが丁寧に説明されていました。ほんの数十分の滞在時間でしたが、築き上げられた時代の凄さに圧巻されっぱなしでした。

その後は、時代の良さを伝える鯨が丘、徳川光國の隠居所である西山荘などを訪ね、建物の時間の経過を改めて再認識し勉強した一日でした。

今回この見学会を機に大谷石研究会に入会させていただきました。皆さんと共にこのような、素晴らしい所を一緒に巡り、色々な事を教えていただきとても勉強になりました。そしてとても刺激になりました。今後ともよろしくお願いたします。



JR日立駅



西山荘



森島酒造



日鉱記念館



鯨が丘



日鉱記念館



見学会参加者の集合写真

会員紹介

「新たな大谷石の魅力を探る」

大谷石研究会 会員 櫻井澄子

(ナックススペースクリエーション一級建築士事務所/スペース610建築塾)

宇都宮と東京で建築設計事務所を営みながら、建築を学ぶ「私塾」を主宰しています。伊東豊雄さんのところで勉強しながら始めた「建築塾」は、まだ動き始めたばかりですが、建築を学ぶことで、建築やまちに対する意識を高め、思考や表現、想像力を伸ばしてもらおうという「こども建築塾」や「大人の学び塾」など、何か楽しいことをやろうと妄想しています。私自身宇都宮出身ということもあり、大谷石は、特別なものではなく、常に身近な存在として生活の中にありました。ヘリテージマネージャーの絡みで大谷石の文化財や大谷石蔵の調査もしましたし、建築設計という仕事柄、建材としての大谷石については、魅力も欠点もよく知っているつもりでした。ところが、宇都宮市大谷石文化推進協議会で「大谷石文化ガイド」を学び、大谷石の魅力は単に建材としてだけでなく、背景には、地域に根付い

た歴史や文化、暮らしなどのストーリーがあるのだということを知りました(小学校の遠足でも聞いたのだろうけど、その時はピンと来なかったんですね)。

建築塾の他、高校や専門学校の非常勤講師やその他の講座などで、建築やインテリアを教えたり、まち歩きをするなど、大谷石について伝える場面が沢山ありましたので、大谷石について深く知りたい気持ちが盛り上がり、以前から気になっていた大谷石研究会に入会しました。入会してまだ間もないですが、建築業界以外の多様な視点や大谷石愛に触れることができ、とても刺激を受けています。今後も皆様と共にいろいろな活動に参加し、新たな大谷石の魅力を発見していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いたします。

